沖縄県総合教育センター　後期長期研修員　研修計画検討会　2019 年 2 月

「特別活動」学習指導案

日　　時：平成 31 年 1 月 18 日（金）
２校時（９:35～10：20）
場　　所：宮里小学校ステップ２組教室
対象児童：１年　女児１名
２年　男児２名
５年　男児１名
６年　男児１名　　計５名
授業者：ナーランシー愛子
指導主事：今村　清輝

Ⅰ　研究テーマ

「児童一人一人の教育的ニーズに応じた主体的な参加を促す授業づくり」
―異学年集団の知的障害特別支援学級における学び合いの授業を通して―

Ⅱ　研究仮設

１　物理的な支援環境を整え、個別の教育的ニーズに応じた支援（支援ツール等）を充足することで、学ぶ意欲が向上し、主体的に活動できる場面が増えるであろう。

２　異学年集団の学び合いの場において、子ども同士の役割や、かかわり方、また、教師による支援の在り方を見直し、他者と意見を交流したり、協働する活動を重ねることで、多様な考えや意見に触れ、寛容さを育み、相手に認められることによって、児童の自尊感情を育むことにつながるであろう。

Ⅲ　研究テーマとの関わり

今次の学習指導要領の改定につながる、中央教育審議会教育課程企画特別部会による論点整理においては、子どもの「学習プロセス」等の重要性に焦点があてられ、子どもの学びに向かう力を引き出すためには、「実社会や実生活に関連した課題などを通じて、動機付けを行い、子どもたちの学びへの興味と努力し続ける意思を喚起する必要がある」としている。また、変化の激しいこれからの社会においては、様々な出来事を受け止め、自分の行動や役割を主体的に判断しながら、他者との対話や議論を通じて、協働的に問題を解決していこうとする力が求められている。本学級の児童においても、現在生活している生まれ育った地域社会で、将来も生活していくことを考えると、本学級だけでなく、協力学級でも多くの時間を過ごす児童が、どの環境においても、感情や意見が表出でき、他の児童と協力して課題解決ができるように、「対話」を重ねる経験が必要であると考える。

特別活動は「なすことによって学ぶ」ことを方法原理としており、このことは、様々な構成の集団から学校生活をとらえ、課題の発見や解決を行い、より良い集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体を示している。そして、特別活動においての重要な要素である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点は、知的障害のある本学級の児童にも重要であり、「対話」を重ねる中で積極的に集団参加や、課題解決に前向きに取り組んでいこうとする力を育む特別活動を実践したい。

そこで本研究では、児童の困難の背景を分析し、児童に係る教師等で共有できる個別の支援シートを作成して、主体的な活動を促す手だてを具体化していきたい。それをふまえて、教師は児童のために物理的支援環境を整え、個別の教育的ニーズに応じた支援（支援ツール等）を充足させたい。そして、適切な教師による人的環境を見直した「授業づくり」を実践することで、児童のもつ学びの困難

を改善し克服するための支援ができると考える。その結果、「できた」という達成感や成就感から自信へとつながる「自己有用感」を感じさせたい。そして、いろいろな自分を認め、物事を前向きにとらえられるよう「自尊感情」を育ませたいと考える。

１　児童観

本研究の対象となる知的障害特別支援学級（以下「本学級」とする。）には，知的障害、脳性麻痺による右半身麻痺、22ｑ11.２欠失症候群、重度自閉症スペクトラム障害、自閉症スペクトラム、重度精神発達遅滞の４つの学年にまたがる計５名の児童が在籍しており、授業を行う上でいくつかの課題がある。一つには、児童の実態が、発達に遅れがあり発音が不明瞭で語彙も少なく、身辺自立や書字理解等が困難な児童から、下学年の内容であれば教師と進めることができる児童、当該学年の学習内容を個に応じた速度で理解できる児童まで、知的発達の程度に幅があり、同時進行の授業を展開することが極めて困難であることがあげられる。また、共同で基礎的な造形活動等に取り組む際は、全員が意欲的に授業に参加し、特に高学年の児童は低学年の児童から頼りにされ、自信をもって活動し、良い手本となる場面が多いのに対し、国語や算数など、系統的・理論的な学習内容が多くなる教科においては、個々の習熟度に合わせた課題であってもなかなか集中して取り組むことができない。

例えば、教師対児童の一対一であれば、集中して問題を解こうとするのだが、教師が他の児童の指導のためにその場を離れると、学習意欲が保てず、一人では集中が困難になり、最後まで課題をやり遂げることができない、という根気強さに欠けてしまう実態がある。

２　題材観

高知大学教区学部准教授の鹿島真弓氏考案「ひらめき体験教室へようこそ」は、前述の特別活動において育成を目指す資質・能力における重要な要素「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の３つの視点が、相互に関わりあって構成されている学習内容である。本題材では、児童の興味・関心の高い題材を基にした問題を用意する。そうすることで、児童が主体的に授業に参加ができ、問題を解く過程の中で児童同士の学び合いや協同学習が随所に取り入れられている。教室内に隠されている問題を探し出し、与えられた問題を解くと、キーワード「ヒミツノアイコトバ」が完成する。その「ヒミツノアイコトバ」を教師に伝えて、最終問題を受け取り、その答えを教師に伝えて完了となる。その後、まとめとして、ひらめき体験教室をやって感じたこと、気づいたことを振り返り、学級で話し合う。

授業を進める時の教師の関わりに関しては、全神経を研ぎ澄まし、学級全体を俯瞰して、児童の動きに素早く対応ができるようにする。児童相互の関わり合いや発言、行動を観察し、効果的な声かけや支援を行っていきたい。

３　指導観

本学級の児童５名に「はじめのいっぽ！」のアセスメントを実施した。また、一年生の児童一名には「学習到達度チェックリスト」によるアセスメントも実施した。その結果から、共通して「耳からの情報処理の困難」、「衝動性の困難」さが見受けられた。また、一年女児の「学習到達度チェックリスト」によると、国語の観点別能力は総合的に３歳程度、算数の観点別能力は総合的に２歳程度で、生活と運動・動作では２歳との結果となった。それをふまえて、指導においては視覚的に情報や課題が理解できるように、教室環境を整え、児童が目的をもって学習に参加ができるように、支援ツールの活用をしていき、児童が対話を重ねて課題に取り組み、協働することができるよう見守りたい。

Ⅳ　題材名　　「５名で話し合い、力を合わせてゴールをめざそう」

Ⅴ　題材の目標

(1) 進んで問題に取り組み、間違えることを恐れるのではなく、意見を出し続けることができる。
(2) 仲間と対話を重ね、意見を終結し、答えに導くことができる。
(3) 全体の目的に向かって、最後までやり抜くことができる。

Ⅵ　指導計画　　総授業時数８時間(週１～２時間)

児童が、授業の流れを見通して動ける様、同じ授業展開の流れを繰り返している。

時　数	授業内容	指導上の留意点
1	【隠された問題を探そう！】 ・問題を探し出す ・問題数(１～２問) （ヒミツノアイコトバを導き出す） ・最終問題をもらい、解く ・ゴールへ行く ・振り返り	・「ひらめき体験教室」の学習内容についての説明し、体験する。 ・隠された問題を探しだす。 ・問題を、5名全員で協力して解き、答えを導き出す。（５名の行動、発言を観察・記録する。） ・児童の発表。 ・教師から児童の学習の様子、輝いていた発言や行動を伝える。 ・一連の活動の流れを体験し、次時への期待を持たせる。
1	【全員で協力し答えを出そう】 ・問題数(２～３問) （授業展開は上記と同じ）	・問題を５名全員で協力して解き、答えを出す。 （主体的に学習に参加ができるよう、個に応じた支援、励ましの声掛けをする。） ・問題の解き方を支援する。 （教師の支援を徐々に減らしていく）
2	【それぞれの役割をはたそう】 ・問題数（３～４問） （授業展開は上記と同じ）	・発言する際に示すカードの使用方法を理解する。 ・児童の発言を、黒板に可視化し、他者の意見に注目させ、答えを共有する。
2	【ヒントツールを活用して答えよう】 ・問題数(３～５問) (授業展開は上記と同じ)	・答えを導き出すためのヒントツールを活用した、自主的な課題解決を促す。 (人的支援を減らして、答えを導き出すヒントツールを増やしていく)
2 (本時)	**【自他の意見を尊重し集結させよう】 ・問題数（５問） (授業展開は上記と同じ)**	**・5 名の児童が、それぞれの役割を自覚し、主体的な課題解決ができる。**

Ⅶ　本時の指導　　(8／8 時間)

１　本時の目標

(1) 主体的に課題に取り組み、自他の意見を尊重し、対話を重ねながら答えを見出すことができる。
(2) 個の教育的ニーズに応じた支援により、問題を協働的に取り組み、学び合い、課題解決ができる。

２　研究対象児童の実態と本時に関する児童の実態、目標及び評価(優◎　良○　もう少し△)

学年	研究対象児童の実態	課題	支援策
A	知的特別支援学校の各教科を合わせた指導の形態で学習	・活動内容の理解は困難だが、興味は示している。 ・協働的な活動を好むが、言語・文字の理解が不十分で他の児童と同じ活動を行うことが難しい。	・教師や友達と一緒に取り組める活動的な内容の工夫。
B	二年生の学習内容を個に応じた速度で理解が可能	・声の小ささ、座席の配置に課題があり、意見が交換しにくい。 ・集団の中で積極的に意見を言うことが難しい。	・相手の注意を引いて発言することができるツールの使用。 （例：ひらめきカード）
C	下学年の内容 （領域による）	・問題の興味が優先され、問題を独り占めしてしまう、友達の意見を聞く、自分の意見を聞いてもらう等のかかわりができていない。	・「聴く」「話す」際の合図になるツールの使用。 （例：ひらめきカード） ・「全員で問題を共有する」ルールが視覚的に理解できる場の設定。
D	下学年の内容 （２～３年生）	・感情的な言動が見られ、良好なコミュニケーションの構築に課題が見られる。	・「全員で問題を共有する」ルールが視覚的に理解できる場の設定。
E	下学年の内容 （領域による）	・協働的な活動のルールは理解しているが、意思や感情の表出が少なく、活動への参加が消極的。	・相手に伝わるよう発言ができるツールの使用。 （例：ひらめきカード） ・「全員で問題を共有する」ルールが視覚的に理解できる場の設定。

3　本時の展開

<table>
<tr><td></td><td>学習内容</td><td colspan="5">児童の活動と指導の留意点(○：人的支援　●：環境的支援　◎：支援ツール)</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>A児</td><td>B児</td><td>C児</td><td>D児</td><td>E児</td></tr>
<tr><td>導入5分</td><td>1　集合・着席
2　初めのあいさつ

3　本時の学習内容の確認</td><td colspan="5">・教室に集合して着席する。
・希望者が号令のあいさつをする。
●時間配分ができるよう、タイムタイマーを教卓に設置しておく。
・本時の授業内容について教師の説明を聞く。(授業内容・制限時間・終了時間)
・活動内容を確認し、課題に取り組む。
●授業内容や課題を順序立てて、黒板に表示する。
●全員の顔写真を張り、個人の発言を適宜黒板に視覚化することで情報を共有する。
●活動の流れが視覚的に把握できるよう、活動番号に「人差し指」の印を付ける。</td></tr>
<tr><td>展開30分</td><td>4　学習内容の確認

5　課題開始</td><td colspan="5">・1つ目、ナゾを探して解く
・2つ目、「ヒミツノアイコトバ」を解き、教師に伝えに行き、最終問題をもらう。
・3つ目、最終問題がわかったら教師に答えを示す
・個別の目標や約束を確認し、学習課題を開始する。
○前時の学習内容を踏まえて、個々の目標を確認する。
◎発言する際に使用する自助具(支援ツール)のルールを確認し理解させる。
・問題を探す。(掲示の紫色画用紙をヒントに紫色の封筒を探す。)
●問題用紙をボードの上に番号ごと並べ、全員が確認できるよう配置する。
●児童が思考錯誤しながら自由に使用できるよう、問題の中央にヒントツールを設置する。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○番号が書いてあるボードの上に問題をクリップで止める。(数字のマッチング)</td><td>○支援ツールを活用して、相手に聞こえる声で発言ができるよう促す。</td><td>○ヒントツールを活用して問題を解き進めていくよう促す。</td><td>○低学年に配慮しながら意見を交流するよう促す。</td><td>○支援ツールを活用して、意見を表出するよう促す。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="5">○常に児童の動きを把握し、必要な支援ができるよう全体を俯瞰する。
○活動内容が課題から逸れぬよう、必要があれば適宜、軌道修正を加える。
○最後まで諦めずに、課題に取り組めるよう励ます声掛けを心がける。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○ヒントツールを問題に照らし合わせて考えてみるよう促す。</td><td>◎順番を守って相手の意見が聴けるよう支援ツールに注目させる。</td><td>○力を合わせて問題を解くという目的を適宜確認する。</td><td>○全体の意見を終結させ、答えを決める様促す。</td><td>○低学年が手助けを必要とする際には手伝うよう促す。</td></tr>
</table>

		◎意欲を大切にし、活動に参加ができるよう支援ツールを活用して答えを考える。	◎タイムタイマーを適宜確認して、残り時間を全体に周知させる。	◎５問題を見渡しながら思考を深めて、ヒントツールを活用し意見を使える。		

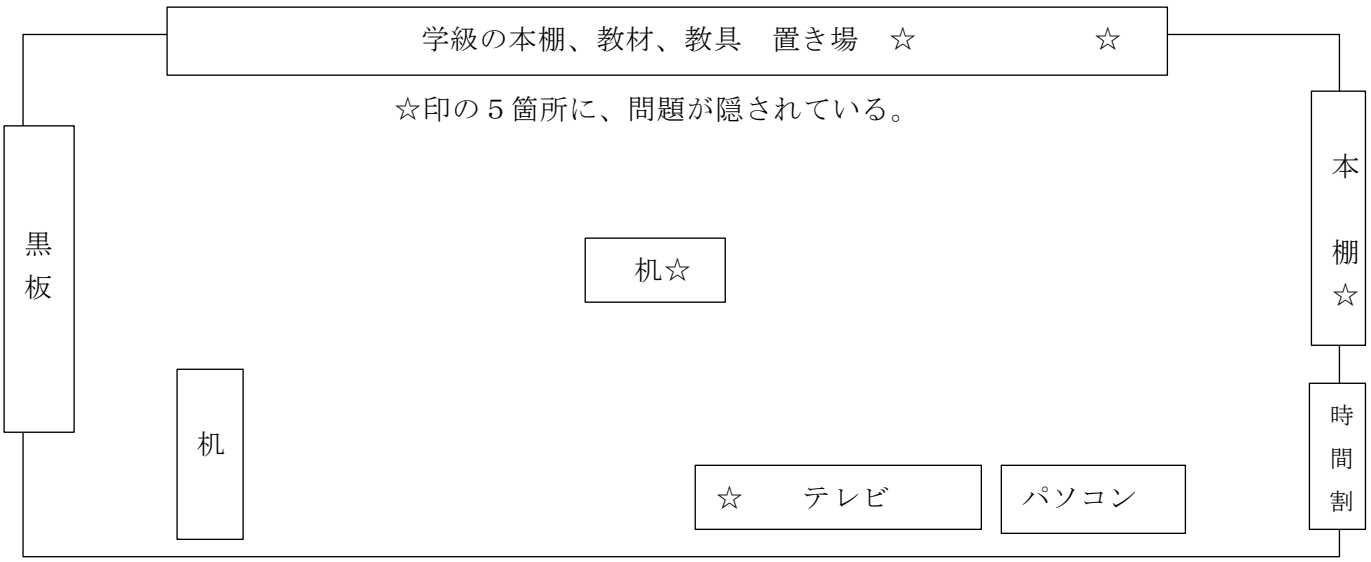
○児童の行動や発言、活動の様子を観察し記録する。（ビデオ）

○児童の「ひらめき」を黒板に視覚化し、全体で共有して、答えを導き出す。
（ひらめいた児童は「ひらめきカード」を提示し、意見を伝える。また、「ひらめきカードが提示されたら、全員注意を向けて「聴く」ことができる。）

○表出が課題の児童には、全員の意見を聴いてどう感じたか、意見を聴き、その意見を全体で共有する。

○高学年の児童が、全体の意見を集約して「ヒミツノアイコトバ」が解読できるよう、支援する。

・最終問題の答えを、教師に伝える。

まとめ１０分	◎着席 ◎授業の振り返り ◎終わりの号令	・個別の目標を確認し、振り返る。 （◎　よくできた　　○　できた　　△　もう少しでできそう） ・本時の感想を発表する。 ○活動の中で見られた児童の頑張っていた様子を具体的に伝える。 （行動や発言より） ○一人一人の頑張っていた様子を発表する。 ・希望者が終わりの挨拶をする。

4　教室配置図及び教具